

特別支援学校中学部におけるポストコロナに向けた 防災教育の教材作成

—PDCA サイクルによる授業の実践と検証を通して—

学籍番号 219505
氏名 古川実豊
主指導教員 富永光昭
副指導教員 岩崎弘

1. 本研究の背景と目的

本教育実践研究の目的は、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況の変化をふまえ、知的障害特別支援学校における、ポストコロナを見据えた特別ニーズ防災教育の授業づくり及び教材づくりを行うことである。令和4年11月29日に文部科学省より通知された「『新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針』の変更等について」で示されているように、学校現場における感染症対策は今後も変化していくと考えられる。第3回国連防災会議（2015）で採択された、「仙台防災枠組」では、「自然災害、人為的要因による災害、および関連する環境的・技術的・生物学的災害とリスク」が明記され、感染症パンデミックも災害の枠組みに加えられた。本論文では、特別なニーズのある子どもの防災教育について、国連等のように、新型コロナウイルス感染症を災害の一つとしてとらえることにした。ポストコロナを見据え、新しい生活様式等の指導領域ごとの授業構成、教材づくり、教師の指導性やICTの活用等、特別ニーズ防災教育自体がどのように変わるかの検討が必要である。また、特別支援学校における防災教育においては、児童生徒の実態に応じた教材及び授業案が不足しており、教材開発を進め、成果を共有し普及させていく必要がある。

本研究では、このような特別ニーズ防災教育と特別支援学校の防災教育の動向をふまえ、知的障害のある生徒が「ポストコロナ」に向けた日々の生活の中で防災について考え、実践していくことができる授業を創り、その分析を行うことにした。その際、従来の手洗い・マスクの着用等の新しい生活様式の指導からの展開として、日本赤十字社（2020）が指摘する「新型コロナウイルスの流行について3つの顔」を参照した。第1の感染症「病気」とともに、第2の感染症「不安」、第3の感染症「差別」が負のスパイラルとしてつながることを防がなければならないと指摘しており、特に、第2、第3の感染症の教材化をはかりたい。

2. 学校実習における実践内容と分析方法

基本学校実習Ⅲ・Ⅳでは知的障害特別支援学校の中学部2年の生徒に対し、発展課題実習Ⅲ・Ⅳでは同校の中学部1年の生徒に対して、「新型コロナウイルスの3つの顔から考えよう」という単元を設定し、「新型コロナウイルスの3つの顔」である、「病気」、「不安」、「差

別」についておさえられるよう教材を作成した。それぞれ、実習の中で生徒一人ひとりの実態把握に基づき、授業スライドとワークシートを作成し、授業実践を行った後、授業構成上重要な局面を「授業局面」として捉え、5つの授業構成要素（目標設定、教材設定、子ども（集団）の状況把握、教師（集団）の指導性、環境設定）と関連づけて総合的質的授業分析を行い、その分析結果を踏まえ、再度授業を構想した。ただし、基本学校実習Ⅲ・Ⅳについては、授業記録の分析に用いるデータが不十分であったため、発展課題実習Ⅲ・Ⅳで対象となる生徒の学年を変更し、教材の改良を行い、新たな生徒の実態把握をふまえて授業を構想した。

3. 成果と課題

各授業局面内の授業構成要素の関連と授業局面間の授業構成要素の関連による総合的質的分析を通し、授業における成果と課題について、以下のように導き出された。

第一は、教材設定をめぐる成果と課題である。実際に最近発熱した生徒のことを話題にし、2種類のイラストを用いてどちらが「不安」の表情か選ぶ活動をクイズ・ゲーム的な形式にした他、イラストの絵カードを活用することで、障害の重い生徒を含め、生徒全員が新型コロナウイルス感染症の2つ目の顔である「不安」について「わかる」ことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症の3つ目の顔である「差別」については、動画やスライドを用いて理解を図ろうとしたものの、ねらいを達成することができなかった。知的障害のある生徒にとっては、「不安」と同様、抽象語である「差別」についてとらえることは困難な部分があるため、生徒が「差別」を具体的にとらえることができるよう、生徒の言葉を日常生活と関連づけることに加え、ロールプレイで場面を具体的に示すことで、生徒が聴きやすく、理解しやすい状況を設定する必要があるといえる。また、「不安」と「差別」どちらについても、授業スライドと合わせ、同時により焦点化されたワークシートを活用した授業を行うことで、生徒全員が「不安」や「差別」の項目について理解しやすくなったと考える。

第二は、授業構成をめぐる課題である。本時は新型コロナウイルス感染症についての「不安」と「差別」を同じ授業時間内で扱い、スライドと合わせ、ワークシートを活用した授業を行ったが、それぞれで十分な時間を確保することが難しくなった。そのため、この授業を1時間ではなく、2時間の授業として再構成し、まとめについては、「不安」、「差別」それぞれの時間で行い、丁寧におさえる必要があると考える。また、「新型コロナ不安チェック」、「新型コロナ差別チェック」はそれぞれ、生徒の実態に則した項目に設定し直す必要があり、この授業を1時間として再構成する場合と、2時間として再構成する場合で異なる授業構成を作成した。

今後、総合的質的授業分析の結果と考察をふまえて作成した修正指導案とワークシートを用いて、再度、ポストコロナに向けた防災教育を実践していきたい。その際、ロールプレイによって、生徒が、新型コロナウイルスについての「不安」や「差別」について、場面や気持ちを具体的に把握できるよう強く意識したい。